

笑顔をつなぐ広報紙

2015

広  
報

ひとよし

3/31

No.1031

施政方針号

市民みんなが健康で笑顔で  
暮らせるまちを目指して



私は2期目の就任時に、1期目同様、市民の声を大切にしながら私の政治信条である「公平、公明、公正なる、市民に開かれた、市民のための市政運営」に取り組むことを約束しました。そして、清流磨川をはじめとした豊かな自然と、鎌倉時代から相良氏が700年守ってきた歴史と文化が共存する本市で「市民みんなが健康で笑顔で暮らせるまち」を実現するため、平成24年4月に第5次人吉市総合計画をスタートさせました。



第5次人吉市総合計画

総合計画の実施に当たっては、厳しい財政運営が続く中、組織機構の見直しなど行財政改革に積極的に取り組み財政健全化に努め、「最小の経費で最大の効果」を得るべく、6つの戦略の下、子育て支援、高齢者福祉、農林業、商工業、観光、消防・防災体制、学校教育、歴史・文化、スポーツの充実などあらゆる施策に全力を傾注してきました。特に子どもについての施策は、子ども医療費助成制度の新設や初めて出産された母親を対象とした子育て講座「はなひらく子育て塾」の開始などの子育て支援策から、「人吉市花まる教室」や「放課後パワーアップ教室」の開講をはじめ学校施設整備など学習環境の充実さらには子ども・子育て相談員による相談体制の確立と、

平成20年9月、蒲島県知事と私は、それぞれの見解として「川辺川ダム計画の白紙撤回を」という表明を行いました。この表明は、その後の球磨川水系の治水対策について、川辺川ダム以外の治水対策の現実的な手法を極限まで検討するという流れとなり、平成21年から「ダムによらない治水を検討する場」で協議を行うこととなりました。

2月3日に開催された第12回の会議では、国、県から6年に及んだ協議の場を終了すること、今後は新たな協議会で議論を続けることが提案され、流域市町村は承認しました。治水対策の協議は新たなステージに進むことになりましたが、国、県で、新設ダムを除くこれまで検討してきた対策を含め、考えられることが表明されたことは、引き続き、ダムによらないハード、ソフト対策の両面から現実的な治水対策が協議されるものと評価するとともに、その実現に向け、国、県、流域市町村と連携を図っていきたいと思います。

成23年5月、私は市民の皆さまの温かいご理解と絶大なご支援を賜り、2期目の市政運営の重責を担わせていただき、本年4月で議員各位とともに任期を満了することになります。

### 1 はじめに

#### 総合計画に基づき事業を推進

組織機構の見直しなど行財政改革に積極的に取り組み財政健全化に努め、「最小の経費で最大の効果」を得るべく、6つの戦略の下、子育て支援、高齢者福祉、農林業、商工業、観光、消防・防災体制、学校教育、歴史・文化、スポーツの充実などあらゆる施策に全力を傾注してきました。特に子どもについての施策は、子ども医療費助成制度の新設や初めて出産された母親を対象とした子育て講座「はなひらく子育て塾」の開始などの子育て支援策から、「人吉市花まる教室」や「放課後パワーアップ教室」の開講をはじめ学校施設整備など学習環境の充実さらには子ども・子育て相談員による相談体制の確立と、

子育てについての施策を一貫して整備し、将来を担う子どもたちの子育て環境を大きく前進させることができたと思います。

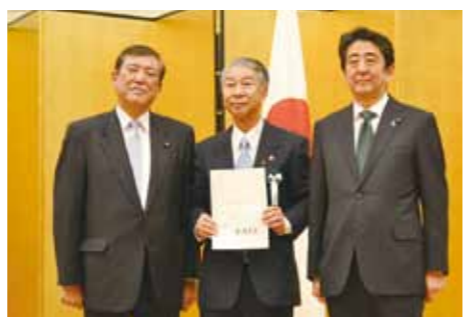
#### 地域再生計画の第一号に認定

国政では、平成24年12月、政権が民主党から自民党に移り、安倍政権の下、長引くデフレからの早期脱却と日本経済再生のための新たな経済政策に加え、まち・ひと・しごと創生長期ビジョンが目指す将来の方向性である、将来にわたって活力ある日本社会を維持していくために、いわゆる地方創生の取り組みが進められようとしています。

私は、「農業で食べられるまち」「観光で食べられるまち」「企業誘致」を何として

#### ダムによらない治水対策の協議を継続

さらに2月12日には、鹿児島県に本社がある株式会社カミチクと、人吉中核工業用地へのハラル専用食肉センターを含む食品加工施設の進出について覚書の調印を行い、念願だった本市の経済活性化に向けた三本柱をいよいよ本格的に実現する環境を整えることができました。



地域再生計画の認定証を手にする田中市長

平成27年第2回 人吉市議会定例会

# 施政方針

市民みんなが健康で笑顔で暮らせるまちを目指して



## 田中市政2期目を総括

2月24日から3月18日まで開催された平成27年3月市議会の冒頭で、田中市長が述べた施政方針をお知らせします。※広報ひとよし掲載用に表現を一部変更しています。

**球磨郡と連携し地域振興策に着手**

人吉球磨では、球磨郡9町村との連携を深め、郡市一体的發展を目指して中心都市としての役割を担うこととし、人吉球磨定住自立圏形成協定の締結やスマートインターチェンジ整備、さらには地域活性化としてくま川鉄道の観光列車・田園シンフォニーの運行開始、広域観光の充実などにも着手して、人吉球磨全体の地域振興や住民福祉の向上への新たな一歩を踏み出すことができたと考えています。

今議会は、今期最後の市議会定例会ですので、これまで議員各位と市民の皆さまとともに取り組んできた市政の軌跡を総括して申し上げたいと思います。

**2 組織別・総務部関連**

**行財政改革へまい進**

本市は、平成23年度に市制施行70周年を迎え、これまで歩んできた70年を振り返り、

さらに飛躍、発展していくことを目指し「過去を温めて新しきを知る」をテーマに掲げ、各種記念事業を進めてきました。

その中で、人吉球磨の自然環境、相良700年の歴史遺産や文化、さらには、肥薩線をはじめとした産業遺産群を大切に守り抜き、後世へ受け渡していくこと、そして、本市の将来を託す次世代を担う人材を育てていくことが、私たちに課せられた最も重要な責務であるとの思いを新たにいたしました。

私が就任した平成19年から始めた「市長と語りうろ」とですが、引き続き各町内にお伺いし、毎年開催してきました。市民の皆さまに市政に対



市制施行70周年記念式典

する理解を深めていただくため、私から直接市の現状を説明し、意見交換をしてきましたが、対話を通じ市民の皆さまと協働でまちづくりを進めていく原点として開催できたと思います。

財政改革関係ですが、1期目に引き続き、2期目の任期中の市長給与の20%削減を実施してきました。また、市職員については新定員適正化計画を策定し、新たな組織機構改革で機動性の高い組織づくりを行い、市職員の総人件費削減にも努めてきました。定員適正化は計画を上回るペースで進んでいて、2期目の任期では、職員数11人、3.2割の削減となる見込みです。これにより職員給与費も単年度決算の比較で、約9千4百万円の削減となっていて、行政サービスの向上と職員の就労環境の改善を図りながら、着実に定員適正化と経費削減を実行してきました。

補助金の見直しとしては、平成23年度に実施した人吉市補助金審査委員会で1年見直しと判断されたものと平成24年度に新規補助金として支出されたもの合計29件に対し、平成25年度に審査を実施し提



ひとよし“かがやき”づくりトーク

言を頂いています。市は、その提言内容を平成26年度予算に反映したところ

行政改革関係ですが、平成25年4月に第5次人吉市行政改革大綱を策定しました。今回は、第5次人吉市総合計画の推進と期間を同じくし、これを側面から支え、総合計画が目指す将来都市像の実現に向け、スピードと柔軟性を持つて、社会情勢の変化に対応しながら、行政サービスの向上と簡素で効率的な行政の推進を図る具体的な改革の道筋を示すことを目的としています。

また、市民ニーズの多様化に迅速で的確に対応するため、職員としての基本姿勢を心構えとし、3つの重点項目

を柱として位置付け、23の具体的な取り組み項目を、平成31年度まで毎年見直しを行いながら、計画的に推進していかねければならないと思います。

**市庁舎移転に向け議論を推進**

庁舎移転建設関係ですが、新市庁舎の移転建設を進めるに当たり、新市庁舎の目指す基本理念と基本方針、これらを踏まえて求められる機能や床面積といった規模などについて、人吉市庁舎等移転建設審議会で慎重に審議を重ねていただきましたが、今回、その方向性を示した答申書(案)と基本構想(案)を市民の皆さまに公開し、1月19日から2月17日の期間、パブリックコメントとして意見を募集したところです。

パブリックコメントの結果は、市庁舎建設に関する特別委員会に提示させていただくとともに、今後の基本設計や実施設計などの策定に活用させていただきます。

窓口などの市民サービス機能の向上をはじめ市民の生命と財産を守るための災害・防災対策拠点機能を備える新市

庁舎の移転建設に対して、今後も引き続き、議員各位さらには市民の皆さまのご理解とご協力をお願い申し上げます。

**地域再生に向けた新たな取り組み**

地域再生計画関連ですが、安倍政権が掲げる地方創生の一環として、昨春秋の臨時国会で成立した「改正地域再生法」に基づく「地域再生計画」に、本市の取り組みが第一号として認定され、1月22日に総理大臣官邸で認定書授与式が行われ、安倍内閣総理大臣から認定書を授与されました。

認定された計画は、「地域資源を活かした人吉ハラル促進区を実現するための地域再生計画」で、今回、地方創生の先駆けとして、全国のほかの自治体をリードしていくモデル自治体としての期待を込められて第一号認定を頂いたところです。また、認定のときに、国からあらゆる方策を使って全力で応援していくといった心強い言葉も頂き、今後、地域再生戦略交付金をはじめとした財政上の支援措置や規制緩和など重層的

な支援を受けることで、この計画の実施がより現実味を帯びていくと思います。

この地域再生計画の取り組みを、今後、本市が策定する「地方版総合戦略」での地域の特性を生かした重要施策の一つとして位置付け、特に安定した雇用の創出を最大限の目標として、スピード感を持って具体的な成果を導き出していこうと思います。

地理空間情報技術関連ですが、地理空間情報技術を防災に活用する実証事業として、1月25日、大雨による土砂災害が発生したと想定し、本市と鹿児島県伊佐市・湧水町の広範囲で防災訓練を実施しました。

この事業は、総務省の委託を受けた「G空間シティ構築事業」の一環として、九州G空間情報実践協議会の構成団体が産学官連携し実施するもので、延べ120人の住民の皆さまをはじめ消防団の関係者の方々に参加していただきました。

訓練概要は、実証事業で開発した参加型情報収集システムを活用し、スマートフォンやタブレットで撮影された災害現場の画像を災害対策本部に送信することで、災害箇所



G空間シティ構築事業に伴う防災訓練の災害対策本部



球磨郡9町村と人吉球磨定住自立圏形成協定を締結

と画像投稿者の位置情報がリアルタイムに集約され、住民がそのシステムを活用することで災害箇所を把握し、安全な避難箇所を確保するというもので、災害対策本部と住民が情報を共有することで、災害時の初動態勢の迅速化などを体験していただけたところです。

訓練に参加いただいた皆さまには、地理空間情報技術の防災活用を通して、地理空間情報技術が私たちの生活を安全で豊かなものにする可能性を体感し、併せてご理解いただきました。

定住自立圏構想関係ですが、圏域として必要な生活機能の確保に関して中心的な役割を担う意思があることなどを明らかにするため、平成26年3月に中心市宣言を行いました。その後、人吉球磨の枠

組みで、この構想の具体的な連携策を検討してきましたが、1月14日、球磨郡9町村と人吉球磨定住自立圏形成協定を締結したところです。現在、7月からそれぞれの政策分野で連携した取り組みの開始を目指して「人吉球磨定住自立圏共生ビジョン」の策定を進めていて、今後、人吉球磨一体となって圏域全体の地域振興に取り組んでいこうと思います。

豆バス、予約型乗合  
タクシーの導入

公共交通関係ですが、人吉  
球磨地域公共交通活性化協議  
会では、平成23年度に駅やバ  
ス停のアクセス機能を強化す  
るため、人吉インターチェン  
ジバス待合所の整備・機能強  
化を行い、安全性と事業効率  
化のため、老朽化している鉄  
道車両の更新として、平成26  
年度にはくま川鉄道に新車  
両・田園シンフォニーの導入  
が終わっています。

また、本市では、平成22年  
10月からの豆バスの運行、平  
成24年10月から予約型乗合タ  
クシーの導入を行っています。  
す。今後も運行実績や地域の  
ニーズを踏まえ、将来的に持  
続可能な公共交通となるよう  
改善していくことが必要と思  
います。

肥薩線を世界遺産へ

肥薩線世界遺産関係です  
が、肥薩線でのD51蒸気機関  
車復活運行と同線の世界遺産  
登録を目指し、平成23年8月  
に「肥薩線を未来へつなぐ協  
議会」を発足し、現在、3県  
14市町村で構成し活動を行っ  
ています。D51蒸気機関車復

防災行政無線を整備

防災関係ですが、平成24年  
度から整備を進めてきた防災  
行政無線は、第1期整備とし  
て市役所本庁舎に基地局、高  
塚山中継局を整備し、同報  
系の屋外拡声子局を市内64カ  
所に設置し、平成25年4月1  
日から運用を開始していま  
す。

平成25年度には第2期整備  
として、屋外拡声子局の追加  
設置や土砂災害の恐れのある  
山間部の地域などに戸別受信  
機を設置、さらには、災害対  
策本部と支部、消防団に携帯  
型無線機と車載型無線機を配  
備しました。

防災行政無線を整備したこ  
とで、災害時の市民の皆さま  
への緊急情報の発信や、災害  
現場の確実な情報伝達と、災  
害に強い通信ネットワークを  
構築することができたところ  
です。

県内初の廃屋対策条例を  
施行

全国的に問題となっている  
空き家対策関係ですが、危険  
な状態で放置されている空き  
家に関し、市民に危害を及ぼ  
すことを未然に防止し、市民

活運行は署名活動を行って  
いて、現在のところ7813人  
にご賛同いただいているとこ  
ろです。世界遺産登録を目指  
した取り組みとしては、肥薩  
線の歴史や背景に加え木造駅  
舎、トンネル、橋など現在確  
認できている245の鉄道関  
連施設について、文献調査、  
現地調査を基に校正や史実の  
補完などを文化財保存計画協  
会に委託し、肥薩線の概要版  
を作成しています。そのほか、  
シンポジウムや講演会などの  
開催や、関係団体の祭りや行  
事への後援などを通じて、肥  
薩線世界遺産登録に向けた普  
及啓発に努めているところで  
す。

また、90年の歴史を持つ旧  
湯前線、現在のくま川鉄道の  
駅舎や橋など19施設は、昨年  
12月に国の有形文化財に登録  
されました。田園シンフォ  
ニーの導入で話題のくま川鉄  
道に歴史的な価値も加わり、  
鉄道施設の保存と活用両面の  
取り組みから広域的な観光資  
源としても新たな展開ができ  
ると期待しているところで  
す。

これら地域鉄道の価値を共  
有し、文化遺産の保護に協力  
する機運を醸成させること  
で、地域資源を未来へ継承し  
が安全で安心して暮らせるま  
ちづくりを推進するため、平  
成25年1月、県内では初めて  
となる人吉市廃屋対策条例を  
施行しました。

条例施行後、廃屋に関する  
情報が寄せられ、中には所有  
者が自主的に解体した事例も  
出てきていて、その効果が表  
れてきているところです。  
少子高齢化や人口の減少が  
進む中、今後も老朽化し廃屋  
となる空き家が増加すると予  
想されます。地震や台風での  
倒壊の危険性に加え、防犯、  
環境、景観の面からも対策を  
求める声が寄せられています。  
今後も市民の皆さまにご理  
解、ご協力いただきながら、  
人吉市廃屋対策条例に基づき  
所有者に対し助言などを行  
い、危険な状態で放置されて  
いる廃屋の解消に取り組んで  
いきたいと思えます。

3 組織別・  
市民部関連

消費者トラブル未然防止  
への取り組み

市民相談関係ですが、近  
年、消費者トラブルを含む生



建築が進む鉄道ミュージアム

矢岳駅に展示中のD51蒸気機関車

ていくサイクルの確立を目  
指すため、その推進運動の  
拠点、ガイダンス施設とし  
て「人吉鉄道ミュージアム  
MOZOCASTATION  
868」の建設に取り組んで  
きました。この3月には建築  
工事が終わる見込みで、5月  
中のオープンに向けて外構工  
事、内部展示などについても  
準備を進めています。

活相談は複雑多岐にわたって  
いて、本市でも不審な電話や  
訪問による詐欺的被害が発生  
しています。人吉市消費生活  
センターでは、特に消費者被  
害に遭いやすいハイリスク消  
費者といわれる高齢者を守る  
ため、町内会や民生委員児童  
委員などの皆さまと連携を図  
り、出前講座で身近な問題と  
して注意喚起を行い、また、  
消費生活センターだよりなど  
を活用し、必要な情報を発信  
し被害の未然防止に努めてき  
ました。

平成26年度には、球磨郡9  
町村と消費生活相談業務の協  
定を締結し、9町村の住民の  
方々の相談も受けていて、人  
吉球磨地域の安全安心を守る  
消費生活相談の中核拠点とし  
ての役割も果たしているところ  
です。

市税納付がコンビニでも  
可能に

納税関係ですが、平成25年  
4月からコンビニエンススト  
アでの市税などの納付を開  
始しました。平成25年度に  
は、市県民税をはじめ税関係  
の全納付書件数の13・4割に  
当たる1万8914件、また  
このうち、金融機関の利用時

間外での利用は、54・5割の  
1万299件のコンビニ納付  
があつています。納税者の皆  
さまには、納付方法の選択肢  
が拡大され、休日や24時間の  
納付ができるなど利便性が向  
上したものと思えます。

美しいふるさとを  
次世代に

環境関係ですが、私たちは  
ふるさと人吉で、先人たちが  
残した豊かな自然環境と脈々  
と続く歴史文化の恩恵を受け  
生活しています。この美  
しい自然と歴史を次世代に引  
き継いでいくことは、市民み  
んなの共通した願いである  
と思えます。そこで、平成25年  
3月、本市の目指す環境像  
を「自然環境と人間生活が共  
に輝く美しき千年都市ひとよ  
し」として、人吉市環境基本  
条例を制定し、平成26年3月  
には、その実現に向けて、市  
民の皆さまと事業者の方々と  
市が一体となって、本市の環  
境を守っていくための約束ご  
とを定めた人吉市生活環境保  
全美化条例を制定し、同年9  
月には行動計画となる人吉市  
環境基本計画を策定したところ  
です。今後は、目指す環境  
像の実現に向け、市民の皆さま



ごみ減量見える化事業

まと力を合わせていきたいと  
思えます。  
ごみ減量の取り組みとして  
は、平成23年度からごみ減量  
大作戦を実施して、レジ  
袋有料化や指定ごみ袋の値下  
げを行い、平成25年11月には  
「人吉ごみを出しま宣言」を  
行い、生ごみの三切る運動な  
どを推進してきました。その  
成果として、平成22年度と平  
成25年度を比較すると、ごみ  
総排出量の約2割の263ト  
ンのごみ減量となっていて、  
平成26年度もごみ減量見える  
化事業を実施しているの  
で、さらにごみ減量が推進される  
と期待しているところです。



国の有形文化財に登録された球磨川第四橋梁を走る田園シンフォニー

4 組織別・健康福祉部関連

地域の支え合いを支援

地域福祉関係ですが、平成23年度から取り組んでまいりました向こう三軒両隣による声掛けネットワークの組織化は、民生委員児童委員をはじめ高齢者相談員、シルバーヘルパーなどの福祉関係者が中心となり、各町内会で声掛けなどの見守りネットワークの構築が進められています。また、町内会単位で作成していただく「避難行動要支援者支え合いマップ」も、1月末現在26町内会で作成されるなど、災害時の支え合い体制が整備されているところです。市としては、安全安心な地域づくりとして地域での支え合いの輪が広がるよう、引き続き町内会に対し出前講座など必要な支援を実施していきたいと思っています。

子育て支援策を大きく拡充

児童福祉関係ですが、子どもの医療費助成は、平成26年7月から助成対象者をこれまでの小学校就学前の幼児から中学3年生までの生徒に拡大し、名称も子ども医療費助成

事業として開始したところですが、小中学生の子どもを持つ保護者の皆さまには、若干の一部自己負担をしていただきませんが、子どもの健康保持と健全な育成を図るとともに、子育てにかかる保護者の経済的負担の軽減に大きく役立つと思います。

子育て支援については、平成25年度に、保護者の多様なニーズに応えるべく、ひまわり保育園が新たに県の認可を受け、本市で初めて夜間保育を開設しました。これで認可保育園は13カ所となり、就労環境を支える保育施設の充実を図り、安心して子育てができる環境を整備しました。

平成26年4月に施行した人吉市子ども・子育て基本条例では、改めて、人吉の子ども一人一人が、かけがえのない人吉の宝物であり、地域ぐるみで関係者それぞれが力を合わせ、役割を果たし、子どもが心身ともに健やかに生きる権利を守るべく、宣言したところです。その対策の一つとして、子ども・子育て相談員を福祉事務所に2人、教育部に1人配置し、児童虐待やいじめをはじめとするあらゆる子育ての悩みについて対応を行うため、相談支援体制の充



子ども・子育て相談員

実を図っています。また、子ども・子育て支援法に基づき、平成27年度から子育て支援のための施策を総合的に推進するため、現在、人吉市子ども・子育て支援事業計画を策定しているところです。

生活困窮者への包括的支援を開始

生活困窮者対策ですが、これまで制度の狭間におかれてきた生活保護受給者以外の生活困窮者に対し、生活保護に至る前に早期に自立につながるよう支援を強化するため、本年4月から生活困窮者自立支援法が施行されることに伴い、本市でも、事業実施に向け現在準備を進めているところ

老人福祉センターを全面改修

高齢者福祉関係ですが、長年の懸案事項だった老朽化した老人福祉センターの改修は、地域活性化交付金事業など国の補助金を有効に活用し、平成23年度から3カ年にわたって施設の改修を行うことができました。

改修は利用者の利便性と快適性の観点から、温泉の温度調節設備の導入や、施設的安全性、環境面として、基礎の強化による耐震化などの大規模改修や太陽光発電設備などの導入を行っています。利用

者の皆さまには、今後、憩いの場と健康づくり、介護予防の拠点として活用いただけると思います。

高齢者が安心して暮らせる環境づくり

高齢者の尊厳保持と介護予防の充実の施策ですが、平成25年4月には「地域包括支援センター」を、市民の皆さまにより一層の親しみと分かりやすさを持ちご利用いただけるよう、「元氣・長生きセンター」として高齢者の方が気



SOSキーホルダーを手にする元氣・長生きセンターの職員

軽に相談いただけるよう積極的に継続的に周知を行うとともに、さまざまな悩みごとや困りごとの解消・解決に向け専門知識を持った職員が相談に応じ、関係機関と連携し包括的な支援を行うなど、体制・機能の充実強化に努めてきたところです。

これまで温泉施設などを利用したデイサービス事業やデイサロン事業を実施し、身体の運動機能の維持改善などの取り組みに成果が現れはじめていますが、さらに多くの方に参加していただくため、コミュニティセンターや町内公民館など、より身近な場所での開催や、参加が少ない男性に特化した介護予防教室を計画するなど、介護予防事業の効果的で効率的な実施に取り組んできました。



介護予防を目的としたデイサービス

た地域で安心して生活を続けられるよう、平成23年度から各校区で認知症高齢者徘徊模倣訓練を実施しています。訓練を通し各校区のみなさんで認知症の方を見守り支え合う仕組みづくりに踏み出すことができました。また、これと呼応する形で65歳以上の方々に「SOSキーホルダー」の無料配布を行い、これまでに約4千人の方に登録していただいています。このキーホルダーを身につけておくと、万が一のとき身元の確認や迅速で的確な対応を受けることができ、これまでも幸い大事に至らなかつた事例が複数発生しているところです。

護、介護放棄や介護のための離職など、介護が原因の多くの問題が全国各地で発生しています。本市では、このような問題も視野に入れ、これまで要介護の方々が個人の尊厳を保ち身体の状態に応じた多様なサービスの安心して受けることができよう、他市に先駆けて、グループホーム、小規模特別養護老人ホームといった施設・居住系サービスなどの介護基盤の整備を進めてきました。その結果、家族や介護者にとっても、介護負担が軽減し安心して自己の生活が継続できる環境づくりにもつながっていると思います。

介護保険関係ですが、高齢者人口の増加とともに、要介護等認定者数は年々増え、認知症高齢者や一人暮らし、高齢者のみの世帯も増加しています。このような中、高齢者が高齢者を介護する老老介

るです。生活困窮者の状況は、失業、多重債務、心身の障がいなどさまざまであり、また多くの方々が複合的な課題を抱えています。市では、庁内の関係各課との連携体制を強化し、関係機関や地域の方々とのネットワークの強化を図りながら、就労そのほかあらゆる問題に対し行う自立相談支援や住宅確保についての支援、学習支援など、包括的な支援体制を構築し、生活困窮者に対し早期自立に向けた支援を行うこととしています。

出産後の育児支援を充実

母子保健事業ですが、妊娠期から就学に至るまで一貫した子育て支援の取り組みを進めるため、これまで乳児家庭全戸訪問事業、乳幼児健診、育児相談、5歳児健康相談を実施してきました。平成25年度からは、初めて出産された母親を対象とした子育て講座「はなひらく子育て塾」を開催し、子育てに関する知識の習得、親としての意識づくりや母親同士の仲間づくりを進めているところです。子どもへの接し方や遊び方などを伝える親子ふれあい教室も、多くの親子に参加をいただいていることから、回数を増やして開催しています。



はなひらく子育て塾

市民健診で健康チェック

健康づくりについてですが、従来の特定健診と後期高齢者健診を「基本健診」へ、各種がん検診を「追加検診」として位置付け、市民の皆さまがより受診しやすい「市民健診」へと大きく見直しを行います。平成24年度から実施している、平成24年度から実施しています。その成果として、特定健診の受診率は、平成23年度の32・5割から平成25年度の40・1割へと上昇し、がん検診でも受診率が伸びるなど、市民健診を受診すること、市民の健康づくりに対する意識の高揚に大きくつながっていると思います。

また、年々増加傾向にある医療費や介護給付費など社会保障費の上昇を抑制するためにも、若い世代からの生活習慣を改善していくことが重要な課題であると認識しています。そのため基本計画として、「市民みんなが健康で笑顔で暮らせるまち ひとよし」を目指して、平成23年3月に人吉市健康増進計画・食育推進計画を策定し、平成26年度からは第2期計画へと進み、生活習慣病に着目した健康づくりに取り組んできたところですが、

5 組織別・経済部関連

農畜産の振興と地産他商

農政関係ですが、農家が将来に向け明るい展望を持って営農していけるよう地域の再生を行うために、人吉市農業委員会、球磨地域農業協同組合と連携し、球磨地域振興局の協力も得ながら「人吉市人農地プラン」の策定のため、農家の皆さまと地域ごとの課題について話し合いを進めてきました。そのことで機運が高まった中神町大柿地区では、新しく集落営農組織を立ち上げられ、ほかの地域でも組織形成に向けた話し合いが重ねられていくところです。

地産他商関係ですが、「農業で食べられるまち」を実現するために、平成24年度に人吉商工会議所、球磨地域農業協同組合、人吉物産振興協会、球磨焼酎酒造組合、球磨酪農農業協同組合、人吉温泉観光協会と本市が横断的に人吉のPRに取り組みするための組織として、人吉ブランド化実行委員会を設立しました。実行委員会では、農産物をはじめさ

さまざまな商品の販路として距離的にも近い関西圏が重要と考え、それまでの東京圏開催から「人吉球磨の味めぐりin大阪せんちゅうパル」として大阪府豊中市で平成25年度から2カ年開催しています。また、福岡県でも平成25年9月から継続して3回開催していて、リピーターも増え、多くのお客さまの目に触れ手に取って買っていただくことで、農産物を含めた物産の販売促進と本市の知名度アップにつながったと思います。

健康を基軸とした農産物の生産振興、販売促進への取り組みとして、農事組合法人人吉きのこ生産組合で平成23年度から国産キクラゲの菌床栽培が開始され、4年が経過した上でさまざまな問題に直面してこられました。関係各位のご協力、そして組合員の皆さまのご努力により、平成26年度は目標を大幅に超える

生産量を確保されるようです。これまでのご苦勞に感謝申し上げるとともに、今後の経営安定化に向け、組合員の皆さまの一致結束したご努力をお願い申し上げます。

畜産振興関係ですが、畜産農家は全国的に高齢化し、繁殖農家戸数が減少しています。また、口蹄疫発生や東日本大震災の影響もあり、子牛の上場頭数が減少し、子牛の価格が高騰している、本市の畜産業、とりわけ繁殖農家では繁殖用子牛の購入に大変な負担を強いられている状況です。そのため、市では、子牛購入の負担を軽減するため、平成26年度に人吉市繁殖用牛導入等資金貸付基金を創設しました。今後、この基金を積極的に活用いただくことで、本市の伝統ある畜産業の経営安定とさらなる発展に期待するところです。

健康を基軸とした農産物の生産振興、販売促進への取り組みとして、農事組合法人人吉きのこ生産組合で平成23年度から国産キクラゲの菌床栽培が開始され、4年が経過した上でさまざまな問題に直面してこられました。関係各位のご協力、そして組合員の皆さまのご努力により、平成26年度は目標を大幅に超える

川辺川総合土地改良事業ですが、昨年7月から2カ月にわたり市内全ての受益地の関係者を対象に説明会を開催し、本事業のこれまでの経過や既設導水路活用案を断念せざるを得なくなった理由、新たな水源を個別に検討していくことなどを説明し、水田農

家の皆さまのご意見、ご要望をお聞きしたところです。集約したご意見は、現在、九州農政局、県、関係6市町村で組織する行政連絡会議で協議を重ね、対応を検討しています。

現在の本市の取り組みは、かんがい排水事業を廃止、農地造成事業と区画整理事業は計画変更とする法手続きに向けた正確な状況把握のため、九州農政局から受益者整理委託事業を受け、受益者の住所、氏名の確認を行っているところです。

また、九州農政局では、上原田地区に新たな水源を確保するために、地下水水源調査が実施されています。今後は、事業の廃止や計画変更のための法手続きと水源確保を併せて進めていくことになりませんが、水を持つ農家へ一日も早く水を届けられるよう国、県と協議を重ね、引き続き努力していきたいと思っています。

城下町風情に向け街並み景観を整備

商工関係ですが、中心市街地活性化については、現在、その基本コンセプトを「城下

町の風情」と定め、にぎわいの創出に向けたまちづくりを進めているところです。

市では、平成25年度に人吉市商店街活性化事業補助金を改正し、空き店舗の開業支援や既設家屋の改装など、事業内容の拡充を図ったところです。その中でも、「城下町の風情」を具現化するため既設家屋の修景などへの助成を実施して、現在は人吉グラウンドデザインのデザインプランに沿った街並み景観を整備するため、日除けやのれんで統一感のある景観づくりを推進しています。

また、きじ馬スタンプ協同組合や東・西九日町商店街振興組合など民間の方々を中心となり、「くま川軽トラックスさんぽ市」や「人吉ふれあい100円商店街」などの事業が実施されていて、にぎわいとお客さまの回遊性の創出に向け、各店舗の工夫した取り組みが行われているところです。

物産振興関係ですが、これまで人吉物産振興協会や熊本県物産振興協議会をはじめとする各団体と共同し、本市の特産品、物産品などの販路拡大に努めてきました。活動としては、「民謡民舞九州地区

中核工業用地への企業進出

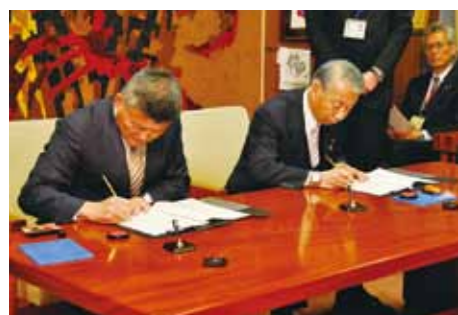
企業誘致関係ですが、これまで企業誘致を推進するため、上漆田町に人吉中核工業用地の環境整備を図り、東京都をはじめあらゆる所へ自らトップセールスによる誘致に努めてきましたが、リーマンショック以降、企業の事業展開が海外へシフトしていくなど、地方都市では依然厳しい状況が続く、本市への企業誘致に結び付けることが叶いませんでした。

そこで、市長就任2期目では、視点を変え、地域資源を改めて見直し、この地域には何があるのか、何ができるのかという

かということを考え、地域の強み、特色を生かした提案型の企業誘致活動ができないかと考えたところです。

その中で、本市を含め、熊本、鹿児島、宮崎の3県は全国有数の畜産・農業県であり、また、日本初のインドネシアとトルコのハラール認証を受けたゼンカイミート株式会社隣接地域に存在する地域の特色と、世界人口の4分の1を占め16億の人口を持つといわれるイスラム圏の中でも、特に成長がめざましい東南アジア諸国を中心とした「ハラール市場」と世界の動向に着目しました。

ハラールに関する取り組みは、地域活性化を図る観点から、本年1月、国が重要課題に掲げる地方創生に向けた地域再生計画として認定を受け、今後、国の大きな後押しを受けて事業を推進することになっていきます。



株式会社カミチクと覚書を締結

地域の特色を観光に生かす

観光振興関係ですが、「観光で食べられるまち」の実現に向けて、これまで本市の最大の強みである「おもてなしの心」で観光客をお迎えし、地域経済の活性化に努めてきました。また、市民の皆さまや人吉温泉観光協会をはじめとする民間団体と行政が一丸となって、第一級の観光地を目指し、さまざまな魅力ある観光事業の推進にも全力を傾注してきたところです。

相良700年の歳月に育まれた本市の歴史と伝統文化を受け継ぐ「日本百名城人吉お城まつり」は、市民総参加のもと、子どもから大人まで楽しめる郷土色のある地域イベントとして、平成20年度から毎年ゴールデンウィークに開催しています。来場者数も年々増加していて、市内小学生の「鉦たたき少年隊」による入城のオープニングや地元高校生の協力によるスタンプラリー、一般の方の武者行列やみこしなどの街中パレードは回を重ねるごとに充実し、また、人吉ならではの催事として、新たに球磨川河畔で「流鏑舟」を実施するなど

さまざまな催しを通して、皆さまに愛され親しまれる人吉の祭りとなっています。

街中イベント「じゅぐりつと博覧会」は、平成21年度から継続して実施していて、多彩なイベント情報を掲載したじゅぐりつと新聞を手に、市内を散策しながらイベントを楽しむなど、市民の方々と観光客の皆さま方に定着してきましたと思います。平成25年度からは秋の開催に一本化して内容の充実を図り、市民の皆さまとともに官民一体となって本市を訪れるお客さまをおもてなしの心を持ってお迎え



舟の上からの的を射る流鏑舟（やぶさね）

し、人吉の特色にさらに創意工夫を重ね、地域活性化に貢献するイベントを企画してきています。

人吉球磨の広域観光は、それぞれの市町村が交流人口を増やし地域経済を活性化させるために、人吉球磨が一つになった周遊滞在型観光事業の実施が不可欠です。その対策として、平成25年度に人吉球磨広域行政組合に広域観光課が発足し、市町村連携の中心的役割を担い、広域観光の事業を推進することとなり、現在、「相良三十三観音めぐりウォーキング大会」をはじめ



3月1日に行われた球磨川下りの川開き祭

球磨川下りの再生を支援

球磨川下り関係ですが、第三セクターのくま川下り株式会社では、観光ニーズの多様化、旅行形態の変化などで乗客数が減少し、平成22年から4年連続の赤字決算を招き、昭和の良き時代から「人吉温泉と球磨川下り」で繁栄した会社経営の歴史の中で、最大の危機、創業以来の試練に直面しました。そのため会社存続の経営戦略として、平成25年度に人件費の見直しと人員の削減を断行し、平成26年度には郷土の誇りと愛情をもつ



人吉地産健康食堂くまがわマルシェ

6 組織別・建設部関連

道路や橋、市営住宅を計画的に整備

土木関係ですが、本市が管理する2以上の橋291橋は、平成22年度に作成した人吉市橋梁長寿命化修繕計画に基づき修繕と改修を進めているところです。

平成24年度以降の進み具合は、鹿目川に架かる小股橋上部工架替工をはじめ中原跨線橋、鶴田橋、染戸橋の修繕を計画的に実施していて、平成26年度からは球磨川に架かる水ノ手橋の補修工事を実施し、平成27年度の工事終了を



補修工事を進めている水ノ手橋

目指しているところです。

道路改良については、社会资本整備総合交付金事業を積極的に活用し整備を進めていて、長年地域の方々が改良を待ち望んでいた市道岩本中神線の改良工事が平成24年度に終了しています。そのほか、市道中青井第一号線、市道大塚桑木津留線などの生活関連道路も、舗装工事、改良工事が終了しています。

市営住宅関係ですが、昭和50年前後に集中して建設された市営住宅が更新時期を迎えていることから、既存ストック住宅の効率的で有効な更新と費用の縮減につなげていくため、平成23年度に公営住宅等長寿命化計画を策定しています。この計画に基づき、修繕と改善が必要と判定された市営住宅は、外壁や屋上防水の改修、浄化槽や給水設備の整備を計画的に進めることとし、これまで立野団地や門前団地などの外壁改修工事、笹栗山団地や蟹作団地などの屋上防水改修工事、西瀬団地の浄化槽改修工事、前田団地の給水設備改修工事などを実施しています。

住宅リフォーム促進事業については、平成24年度から個人所有の既存住宅を対象に、

機能維持、居住環境の整備と性能向上を図るための改修費用の一部を助成しています。これまでに172件の申請があり、毎年予算額に達している状況から、市民の皆さまの安全安心で快適な生活環境づくりを進めるという目的を十分果たしてきたと思います。平成25年度からは補助金の一部をきじ馬スタンプ協同組合加盟店で使用できる商品券として交付していて、間接的に地域経済の活性化にも貢献しているところです。

さらに戸建木造住宅耐震改修事業として、個人の戸建木造住宅の耐震診断と改修に対し助成を行っているところです。

鍛冶屋町通りの景観整備を実施

都市計画関係ですが、鍛冶屋町通りは国の事業を活用し、地域住民の皆さまのご協力を得て、平成16年度以降、街なみ環境整備事業を実施してきました。平成25年度までの事業の成果としては、10件の民家修景助成事業と通路の整備や案内板などの設置による景観整備を進めるとともに、小公園用地取得を行いま

した。平成26年度は、既存の石倉を利用した小さな美術館建設を含めた小公園の整備に着手し、現在、3月末の完成を目指し工事を進めているところです。

平成27年度は本事業の最終年度となっていますので、引き続き地域の皆さまのご協力を頂きながら事業を推進し、当地域の歴史・文化を生かした景観形成と人と人が交流する街並みづくりに取り組んでいきたいと思っています。

公園事業については、平成23年度に策定した人吉市都市公園施設長寿命化計画に基づき、子どもや高齢者をはじめ誰もが安全で安心して利用できる都市公園を目指し、計画的に整備を進めることとしています。平成24年度から国の補助事業を活用し、村山公園内の東屋、便益施設などの改修や、石野公園内の老朽化した遊具施設の更新を行うなど、市民の憩いの場として安心して過ごせる公園整備に努めてきました。

下林願成寺線の整備を計画

街路事業については、平成24年度に都市計画道路下林願成寺線の事業認可を受け、人吉インターチェンジから通称フルーティロード交差点付近までの整備を行うため、平成25年度から用地取得に取り組んでいるところです。今後の計画としては、平成27年度も引き続き用地取得に努め、平成29年度から平成30年度にかけて車道工事など本格的な工事を行う予定とされていますが、一定区間の用地取得が早期にできた場合は、歩道などの工事を先行して行い、歩行者の通行の安全を確保したいと思っております。

スマートインターチェンジ整備事業を推進

スマートインターチェンジ整備事業関係ですが、平成25年7月にスマートインターチェンジ整備準備室を設置し、事業実施に向けて準備を進めてきたところ、昨年8月、国土交通大臣から連結許可をいただきました。その後、西日本高速道路株式会社と協定を締結し、現在、西日本高速

7 組織別・教育関連

60年ぶりの教育委員会制度改正

教育委員会制度の改正ですが、地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律が4月1日から施行されます。今回の制度改正の趣旨は、教育の政治的中立性、継続性、安定性を確保しつつ、地方教育行政での責任の明確化、迅速な危機管理体制の構築、首長との連携強化を図り、合わせて地方に対する国の関与の見直しを図るなどとされており、60年ぶりの大きな制度改正となっております。改正の具体的な内容としては、「教育委員長と教育長を一体化した新教育長」「首

長が主宰し、教育行政を協議する総合教育会議」「教育目標や施策の根本的な方針を定めた教育大綱の策定」などです。

教育振興基本計画ですが、第5次人吉市総合計画のまちづくりの理念の下、どのように教育の振興を図るのか、その道筋を明らかにするため、平成25年3月、人吉市教育振興基本計画を策定しました。計画期間は平成28年度までの4年間とし、市民一人一人が学ぶ意欲を養うことで、将来の夢や希望に向かって自らの可能性を高め、人間力、人としての生きる力を育み、心身ともに健康で豊かな人生を送ることができる生涯学習社会の実現を目指すこととしています。

学校の統廃合ですが、これまで休校としていた西瀬小学校鹿目分校、田野小学校、矢岳小学校の3校を、平成26年3月末で廃校としました。歴史と伝統ある小学校を廃校にすることは、少子化、さらには学校教育を取り巻く環境を考慮したとき、将来避けては通れない課題であり、本市にとっても苦渋の選択でしたが、3校を同時廃校としたところ、廃校後の有効活用

については、西瀬小学校鹿目分校は西瀬校区公民館の分館を踏まえ、地域の活性化につながるような活用策を検討中です。矢岳小学校は、地域コミュニティの活動基盤が岳寿館に移っているため、適切な時期に施設の解体を計画しているところです。

学校の耐震化が終了

学校施設整備については、平成19年度に耐震2次診断を行い、耐震補強が必要となつた5校の耐震改修工事を国の安全・安心な学校づくり交付金を活用し計画的に取り組み、平成25年度で全ての学校の耐震化が終了しました。また、国の経済対策の一環として、学校施設環境改善交付金事業の採択を受け、平成25年度から2カ年にわたり、小学校5校の給水設備と小中学校4校のプール改築工事を実施し、安全安心で快適な学習環境の整備を図りました。

児童の基礎学力向上への取り組み

学校教育関係ですが、児童の基礎学力の定着と向上を図



放課後パワーアップ教室

るため、平成23年度から「放課後パワーアップ教室」「夏休みパワーアップ教室」を開講しています。受講した児童一人一人は、学ぶことで分かる喜びや達成感を味わうだけでなく、勉強をこつこつと頑張ることの大切さを実感するなど、学習意欲と学力の向上につながったものと確信しています。事業の実施に当たりご協力いただいた学習サポーターの皆さまに改めてお礼を申し上げます。

いじめ防止対策関係ですが、全国で起きているいじめが原因とみられる痛ましい事件を目にするたび、いじめ防止に向けた対策の必要性を強く認識してきたところです。本市では、いじめ防止対策推進法の施行を受け、昨年3月に人吉市いじめ防止基本方針を策定、2月にはいじめ問題対策連絡協議会を設置しました。協議会では、いじめ問題に関係するさまざまな機関や団体の連携を図り、いじめの防止、早期発見、いじめ事案への対処などを行うこととされています。

また、人吉市子ども・子育て基本条例に基づき、昨年4月から「子ども・子育て相談室」を開設して、人吉つ子アドバイザーや福祉事務所、関係機関と連携し、子育てについての相談の充実強化に取り組んでいるところです。

学校でむし歯予防うがいを実施

平成26年度から実施を計画していた小中学校での児童・生徒の虫歯予防の取り組みですが、むし歯予防うがいを昨年11月から試行し、本年1月

に市内全小中学校で本格的に実施しています。開始当初の希望者数は、全体の8割を超える2257人となっております。今後より多くの児童・生徒がむし歯予防うがいに取り組み、自らの歯と口の健康を維持することで、一人一人が丈夫な体を作れるようサポートするとともに、本事業の成果なども関係機関と協議を行い、しっかりと検証していきたいと思っております。

学校給食関係ですが、平成23年4月から民間委託した第2期の学校給食調理業務は、本年3月31日で委託契約期間が満了となることから、第3期の業者選定を行うためにプロポーザル方式で公募を行いました。県内外から2社が応募され、人吉市学校給食調理業務委託業者選定委員会の厳正な審査の結果、南国フーズサービズ株式会社が平成27年度から平成30年度までの学校給食調理業務を行うことになりました。選定作業に携わっていたいただいた委員の皆さまには、心から感謝申し上げます。

社会教育関係ですが、地域住民の新たな生涯学習の機会として、平成24年度に「ひとよし花まる学園大学」を開講、



小中学校で実施中のむし歯予防うがい

高校生を対象にした「十代未来塾」も出前講座として開催して、大学のない町へ大衆をというテーマの下、今後とも豊かで質の高い生涯学習環境の創出に努めていきます。

豊かな自然で学ぶ屋外教育

子どもたちの学びの場として、平成26年度から人吉型サマースクール「人吉市草木山川学校」を開校しました。夏休み期間を利用して実施した万江川での川遊びには、人吉市花まる教室に通う小学2年生約90人の児童が参加し、豊かな自然の中での遊びを満喫していました。参加した児童や保護者からは多くの喜びの声



人吉型野外スクール「草木山川学校」

子どもたちをインターネット社会から守る取り組みは、昨年7月、子どもたちが携帯電話、スマートフォン、インターネットを使用する上でのルールとして、「人吉市子どもを守る五つの宣言」が策定されました。11月には、人吉市青少年育成市民会議と人吉



インターネット依存社会から子どもたちを守る市民大会

子どもたちをインターネット社会から守る取り組みは、昨年7月、子どもたちが携帯電話、スマートフォン、インターネットを使用する上でのルールとして、「人吉市子どもを守る五つの宣言」が策定されました。11月には、人吉市青少年育成市民会議と人吉

市PTA連絡協議会を中心に、この宣言を各家庭の取り組みから市民の総力を挙げた地域の取り組みに拡大するため、カルチャープレス大ホールで「インターネット依存社会から子どもたちを守る市民大会」が開催されました。宣言づくりから大会開催にご尽力いただいた保護者の皆さまをはじめ関係者の方々に、改めてお礼を申し上げます。



**スポーツ推進基本計画を策定**

スポーツ振興関係ですが、毎年開催している「ひとよし春風マラソン」も本年度で12回を数え、3年連続で6千人を超える市民ランナーにエントリーいただくなど、全国で増加傾向にあるシティマラソンの中でも、家族ぐるみで参加し楽しめる「家族と走る、家族が応援する」マラソン大会としての地位を築きつつあるものと評価をしているところです。平成26年9月には、長崎ががんばらば国体のカヌーワールドウオーターとスラロームの競技会場として、球磨川を舞台に各県代表選手たちの熱戦が繰り広げられ、多くの感動が生まれました。

このたび、「市民みんなが健康で笑顔で暮らせるスポーツ都市ひとよし」を目指す姿として、あらゆる市民に応じたスポーツ活動の推進、市民誰もが参画できる地域のスポーツ環境の整備、競技力の向上とトップアスリートの育成、スポーツ活動の基盤づくりという4つの基本施策による、人吉市スポーツ推進基本計画を策定しました。計画期間を平成27年度から平成31年



6,096人が走った今年の「ひとよし春風マラソン」



人吉市名誉市民・川上哲治氏の追悼記念式典



林間学校跡に移転・新築した人吉城跡の公衆トイレ

度と定め、今後、本市のスポーツ環境づくり、市民の健康増進に取り組んでいきます。平成25年10月、本市の名誉市民でプロ野球読売巨人軍の選手、監督として活躍された川上哲治氏のご逝去され、その訃報は巨星墮つとして全国を駆け巡り、人吉市民をはじめ全国の多くの人々に衝撃を与えました。

育て上げ打撃の神様と称えられた川上哲治氏を、郷土の偉人として誇りを持ち後世に伝えていくことは本市の責務であり、現在、ご遺族のご意向に沿い、川上哲治記念球場に新たな展示コーナーを設け、その功績を多くの人に触れていただいています。

**人吉球磨の文化財を広域的に保存・活用**

文化財関係ですが、史跡人吉城跡は平成24年度から大手門南側の整備に着手し、陥没で崩壊が心配されていた石垣

の修復と排水溝と周辺の整備を行っているところです。また、老朽化した相良神社東側の公衆トイレは、人吉城跡の景観や環境に配慮し、平成25年度に林間学校跡に移転・新築しました。今後も人吉市民の心よりどこでも本市のシンボルである人吉城跡の適切な保存管理と整備活用を図っていきたいと思います。

県内での国・県指定重要文化財の社寺建造物の8割を超える文化財が残る人吉球磨地域では、平成24年9月、県、10市町村、人吉球磨広域行政組合と連携して球磨地域文

化財広域連携協議会を設置し、昨年7月その活動の指針となる球磨地域文化財広域連携マスタープランを策定しました。今後はマスタープランに基づき、文化財を護る、育む、魅せるという3つの視点から、点在する古社寺などの文化財の広域的な保存・活用を推進することとしています。また、この取り組みをさらに進めることで、相良氏が700年にわたり統治してきた歴史的な特異性と醸成された豊かな精神文化を合わせて、日本遺産認定に押し上げていきたいと思えます。地域住民

の皆さまのご理解とご協力を心からお願ひ申し上げます。人吉城歴史館特別展ですが、地域に眠る歴史資源に焦点を当てた相良家菩提寺であった願成寺の宝物展や明治大正時代の人吉七町をテーマとした引札・絵葉書の展示のほか、音楽家犬童球溪先生やジユグリット先生こと一井正典氏、人吉藩家老相良清兵衛など地域の偉人展も開催してきましたところですが、

お庭御覧については、平成23年度に日本を代表する作家・野村勘治氏を講師に迎え開催した「緑のリレーフォーラム」を契機として、市内に眠る庭園に光を当て、その価値や特徴を明らかにし、歴史遺産としての評価を行い、新たな観光資源として活用する

ことを目的として実施しています。平成25年度にはこれらの庭園をめぐる3つの周遊コースを設定して、現在、多くの皆さまに人吉の庭園文化を散策いただいています。カルチャーパレスの大規模改修ですが、平成25年度に大ホールの一部、非常用自家発電設備や館内のトイレの改修工事を行い、平成26年度には小ホールの舞台機構設備、舞台照明設備の改修工事を実施しています。

文化振興関係ですが、犬童球溪顕彰音楽祭、人吉球磨総合美展は60年以上続く本市の文化振興を支えるイベントとして、関係者の皆さま方と一緒に工夫を重ね開催してきたところですが、平成26年度に



くまもと子ども芸術祭2014 in人吉



水道週間に行く漏水調査

上水道事業関係ですが、平成23年度以降の4年間で給水戸数は50戸余り増加し、平成26年度末で1万5740戸ほどに達する見込みです。水道施設の整備関係については、人吉市水道ビジョンの事業計画に基づき、水道管路の耐震化と老朽管更新事業を実施し

**おいしい水を安定的に提供**

**8 組織別・水道局関連**

は「くまもと子ども芸術祭2014 in人吉」が開催され、人吉球磨の郷土芸能、伝統文化を本市の子どもたちが披露し、世代を超えて地域文化が継承されていくことを県内外に発信することができました。自主文化事業については、平成24年度と平成26年度の2回にわたって人間国宝六代・山勢松韻先生を迎え、箏曲人吉公演を開催しました。ご来場いただいた皆さまには、箏曲の奥行きが深い演奏で日本の伝統文化に直に触れ合うことができたものと思えます。

てきました。茂ヶ野水源地から原城配水池までの送水管改良工事は、漆田地区の一部を平成22年度から着手し、平成25年度に工事が終わり、平成26年度からは蟹作地区の整備に着手しているところです。また、上戸越地区の一部拡張事業は、落地区の配水管布設工事を平成24年度に終了しました。

給水収益については、少子高齢化による人口減少、節水機器などの普及に伴い、毎年減少している状況です。しかしながら、標準家庭で使用される水道料金は現在も県下14市で最も安い料金となっています。今後も、人吉市水道ビジョンの基本計画、水道施設更新計画、財政計画に基づき、水道事業の経営安定化を図り、低廉、清浄でおいしい水を提供できるよう努めていきます。

**平成27年度から公営企業会計へ移行**

公共下水道事業関係ですが、平成24年度から進めてきた公共下水道全体計画の見直しについては、人口減少、社会情勢の変化などを踏まえ昨年7月に計画変更を行ったと

ころです。現在の事業認可区域1029ヘクタールは整備がほぼ終了して、平成25年度末の普及率は73.2%となつていきます。本市の下水道事業は、昭和49年の事業着手以来40年以上経過し施設の老朽化もみられ、終末処理場人吉浄水苑は、第2期改築更新計画に基づき汚泥処理設備と電気設備などの改築工事を実施してきました。

また、下水道事業の経営基盤強化については、健全で持続可能な下水道経営を目指して公営企業会計導入に向けた準備を進めてきましたが、平成27年4月から地方公営企業法を適用し、公営企業会計へ移行することとしています。

次に浄化槽関係ですが、現在、国の循環型社会形成交付金事業を活用し、平成23年度から27年度までの計画で設置整備を進めています。平成24年度からは、従来の国、県の補助制度に上乗せ補助を実施して、その効果もあつて設置基盤も順調に増加し、下水道事業と浄化槽設置の両面から生活排水処理に対応すること、住環境の改善と公共用水域の水質保全に努めているところですが、

春、らんまんー。



## 広報ひとよし平成27年3月施政方針号

---

発行・編集 人吉市役所総務課秘書広報係  
〒868-8601 熊本県人吉市麓町16番地  
<http://www.city.hitoyoshi.lg.jp/>  
✉ [info@city.hitoyoshi.lg.jp](mailto:info@city.hitoyoshi.lg.jp)  
☎ (0966) 22-2111 FAX (0966) 24-7869  
表紙・裏表紙：人吉城跡の桜（昨年の様子）